

## 1. 活動報告（事務局 記）

—12月8日（土）午後1時より収穫祭の準備として米の水洗い、テントの設営、餅もみ台の設置、会議室内の準備、その他の作業を行いました。参加者は、会員13名、市関係者2名です。

—12月9日（日）稲作体験の最後の行事である収穫祭として、餅つきを二俣瀬ふれあいセンターにて行いました。挨拶・説明の後、安全祈願をして、バーナー3台によりセイロ蒸し、4台の電動餅つき機でもちにして、親子で餅もみをしてもらいました。台唐による餅つきも子供たちに体験してもらいました。終わりの挨拶の後、参加者にお餅のパックをお渡しし、無事に終わることが出来ました。参加者は、親子自然観察隊（親12名、子17名）、二俣瀬子ども会（親16名、子17名）、市民環境部部長と市の関係者4名、農協厚東川支店1名、環境コミュニティ理事長、会員25名、会員の奥様3名でした。親子自然観察隊はその後で、解隊式も行いました。

—12月22日（土）作業は、田んぼの堆肥散布でした。その後、懇親会を実施し来年度の行事計画などを話し合いました。参加者は、12名です。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—1月6日（日）正月休み

—1月19日（土）維持活動・エコアップ

## 3. 来訪者の声

今回はありません。

#### 4. 会員の声 「 」 ( 記)

今回はありません。

#### 5. 親子自然観察隊 「親子自然観察隊 収穫祭・解隊式」(管 哲郎 記)

今年最後のイベント、餅つきと解隊式が12月9日(日)に行われました。2~3日前までは12月とは思えないような暖かな日が続きましたが、昨日よりいつものように寒い冬日に戻ったようです。お天気は上々、昨日は雪がちらつきましたが今日は晴れてそんな心配もなくお餅つきを行いました。今年はお米の出来が良く豊作でした。

お餅つきを始める前、安全祈願の神事を行いました。今年全般に観察隊の出席率は悪かったのですが、入会者が多かったので出席者はいつものようにまずまずのご家族が集まり、二俣瀬子供会の子供たちと合同で今年もにぎやかにお餅つきが行われました。夢中でお餅を丸めるあまり、子供たちの中には衣服を真っ白にしてみたり、おしろいのように顔に白い粉がついたり、一生懸命おもち作りを楽しんでくれる様子がほほえましかったことでした。また、現在はおやつに洋菓子などを食べる習慣がおおいのですが、つきたてのお餅を少し千切り、お餅を丸めながらほおぼっている子たちもおり、感想を聞いてみると「とてもおいしい!」と言っておなか一杯食べた子供もいたようです。私も食べてみたのですが、今年のお餅は特に美味しく感じました、いつものお米と種類が違ったのでしょうか。つきたてのお餅のおいしさは老若問わずおいしいものであろうと思うものです。

お餅つきも昼前には無事終わり、親子全員にお餅が配られました。そのあと「解隊式」を行いました。出席率の良い隊員には隊より「頑張りました賞」が送られました。全員に差し上げたかったのですが已むをえませんでした、次に頑張ってください。

寒い中のお餅つきは気合が入ってよいものですが、水を扱う作業があり担当は大変でした。処理する量も今年は少し多くつらいものがありましたが、おかげさまで無事終了しました、ご苦労様でした。昨日も寒い中餅つきの準備を行なっていただきましたし会員の皆様、今年もご苦労様でした。



お餅を丸める



←ダイガラでのお餅つき



記念撮影→

### 親子自然観察隊の感想

#### ★有吉遼

毎回とても楽しい活動でした。ありがとうございました

観察隊では、春は野草、夏は沢登り、秋は収穫と季節にあった行事があり、昔の生活を体験しているみたいでした。来年も楽しみです

#### ★有吉(母)

観察隊での活動は毎回とても楽しみにしていました。普段の生活でついつい忘れてしまいがちな大切なものをたくさん教えてもらいました。今年も1年間大変お世話になりました。

#### ★辻岡(母)

今年はなかなか日程が合わず、半分くらいしか参加できませんでしたが、毎回子どもたちと一緒に楽しく過ごすことができました。夏の滝登りに参加できなかったことは、いまでも子供たちが悔しがっています。しかし、どの回もビオトープでの学びは、現代の生活ではなかなか得られるものではなく、親子共に貴重な体験となりました。私自身、緑、虫、土、水、全ての自然がいとおしく感じるようになりました。一方で、ビオトープの管理には大変な手間と時間がかかり、維持が難しいという問題もあるかもしれません。しかし、女の子を育てる母として、汚い、怖いとなかなか自然の中で思い切り遊ぶ機会もなく、そのまま大人になってしまった私のような母親もあり、体験の場として是非存続を願います。楽しく、貴重な一年間をどうもありがとうございました。

## 6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

### (36) タガメ *Lethocerus deyrollei* カメムシ亜目 コオイムシ科

ゲンゴロウと並び数少なくなった水生昆虫です。それでもまだしぶとく山口県東部の水田地帯に頑張っているように見えます。水田と共に生きてきた水生昆虫ですが、農薬の影響などで数を減らしているようです。

タガメは水の中で生活するカメムシです。日本には140種類の水生カメムシがいるようで、種類の多さに驚きましたが、一般に知られている水生カメムシとしてはコオイムシ、ミズカマキリ、タイコウチ、マツモムシなどでしょう、この4種類はビオトープにも生息しています、一度確認してみてください。

タガメの体長は6 cmを越え、日本産カメムシでは一番大きく、自分より大きなカエルでも平気で捕まえ体液を吸ってしまいます。魚やオタマジャクシたちにとってはとても怖い生き物ですね。まるでドラキュラのような怪獣です。

ビオトープはタガメにとって天国のような場所で、持ち込めば確実に繁殖しますが、そのことが外部に広まると「ハンター」たちがわんさと押し寄せ、ビオトープの希少な生き物たちが根こそぎ採集されてしまいます。せっかくの素晴らしいビオトープが全く魅力のないため池になってしまいますので、タガメの移植はやめました、自然に入って来るものは大歓迎しますが人為的ではあまり価値がありません。

\*ハンター：動植物を採集しお金儲けをする人たち。

さて、親子自然観察隊隊員の河野悠希君(防府市・右田小学校3年生)が今年の夏に防府市の科学博物館「ソラール」で「ふしぎな生物タガメ」という研究成果を発表しました。タガメの捕食や生態の研究を行って、素晴らしい成果を上げられました。観察隊の隊員にもこのような素晴らしい仲間がいます、紹介しておきます。



タガメの成虫



タガメの幼生

## 7. 会よりの連絡事項

- 1、1月6日は正月休みで作業などはありません。来年の活動に関しましては、大いに参加して戴けるようお願いいたしますが、参加者が少ないと作業も捗りません。皆様、よいお年をお迎えください。

## 8. 編集後記

この季節になると、ビオトープの水面では立ち枯れた植物が目立ちます。在来の浮葉植物もなくなり、水面上では寂しげな景色が広がっています。しかし地下では来春に向けた準備が着々と進んでいます。枯れた茎の根元あるいは地下茎の先端から新芽が出ているのです。湿地帯に生えているガマもその一つです。

ビオトープのガマは、厚東川ダム近くの水路から移植したものです。しかし現在、ガマはエコアップの大きな障害となっています。湿地帯の水面下は柔らかい土が20センチ程度堆積しており、この下に基盤となる固い土があります。ガマの根及び地下茎はその基盤にしっかりと張り付いる為、除去が困難となっています。この大変さは、エコアップを経験したものしかわからないでしょう。

本来ならばガマはビオトープにとって有益な植物です。水中の栄養塩を吸収するため水の浄化に効果があり、さらに水棲動物の隠れ家となり外敵からの食害を防ぐこともできます。水面への日光を遮らないような適度な密度で生えていれば問題はありません。しかし密集すればとんでもないことになると感じています。貴重な在来水生植物の成長が阻害され、泥の堆積も促進されます。人の手による、適切な間引きが必要なのです。

先日、ネットで他のビオトープの写真を見ていると、ガマが適度に生え水面も確保されたビオトープがありました。管理日誌を読んでもみると、根から引き抜くのではなく茎を刈り取っているようでした。来年はこの方法を試してみようかなと考えています。これでもうまくいけば、来年のエコアップは手間が省けそうです。

( 前田 歳朗 記 )